

令和 6 年 4 月 2 日

令和 6 年度 学校経営方針

北九州市立小倉南特別支援学校
校長 長谷川 智美

1. 教育目標

児童生徒の自立と社会参加を目指し、生涯にわたり生きがいをもって生活できる、心身ともにたくましく生きる人間の育成を図る。

2. 本年度の重点

- ① 全てのこどもにとって「居心地の良い学校」をつくる。
- ② こどもが失敗を恐れず挑戦し、志と人間力を高められる環境をつくる。
- ③ 誰一人取り残さない学びと、先端的な学びを進める。
- ④ 自律的で特色ある学校づくりを進め、教職員のウェルビーイングを高める。
- ⑤ 地域とのつながりの中で、こどもを見守り、支え育てる。

3. 具体的方策

- ① 全てのこどもにとって「居心地の良い学校」をつくる。
 - (ア) 特別支援教育の専門性に裏付けられた教育活動の実践(児童生徒の可能性を引き出す教育の充実)
 - 人権尊重の理念を認識した教育活動
 - 障害特性の熟知及び教育的ニーズに応じた指導・支援(ASDの理解と対応)
 - (イ) 安心・安全な学校づくりを行う。
 - 命を守る安全指導の徹底(疾病予防、保健指導(命の安全教育)・個に応じた摂食の指導)
 - 事故防止や緊急時の対応等、危機管理体制の整備(校内美化・安全点検・緊急対応シミュレーション・防災教育・不審者対応)
 - 令和6年度版「小倉南教職員ルールブック」の活用(不祥事防止マニュアルの活用・綱紀粛正の徹底・個人情報等、情報管理の徹底)
 - 迅速かつ組織的な生徒指導(不登校、いじめ事案等、支援体制の整備による組織的な対応)
 - 健全な生活習慣につながる生活指導の徹底(基本的な生活習慣・安全な給食指導・性に関する指導)
- ② こどもが失敗を恐れず挑戦し、志と人間力を高められる環境を作る。
 - (ウ) 指導力・相談力の向上
 - 授業研究や研修の計画的実施(校内研修の充実・校外研修への参加)
 - 組織的な人材育成、特別支援教育の専門性向上
 - タブレット端末等ICT活用推進や自立活動等教材教具に関する情報共有

- ③ 誰一人取り残さない学びと、先端的な学びを進める。
- (エ) 学習指導要領を踏まえた取組
- 研究主題『育成を目指す資質・能力を明確にした指導の充実』～マトリックス表を活用した授業実践～
 - 児童生徒や地域の実態並びに児童生徒の障害の状態等を考慮して本校の特色を生かした教育課程の編成(合わせた指導の教科目標、評価基準の明確化)
- (オ) 個別最適な指導の実践
- 「自立活動」の個別の指導計画に基づく指導の充実(新自立活動評価表・手順シート活用・指導方法の工夫)
 - 個別の教育指導計画の趣旨説明と適切な活用(合理的配慮の具体化・手だての工夫)
 - 学習状況の丁寧な説明と、児童生徒及び保護者の困り感に添った相談支援・適切な情報提供と具体的な助言(保護者との信頼関係づくり)
- ④ 自律的で特色ある学校づくりを進め、教職員のウェルビーイングを高める。
- (カ) 児童生徒が主体的に取り組める学校行事の実施
- 体育的行事検討委員会の決定に従って実施する。また、変更の趣旨や行事の目的については児童生徒及び保護者に丁寧に説明を行う。
- (キ) 小学部・中学部・高等部の一貫した進路指導
- 自己決定、自己選択する力の育成(行先の選択ではなく生き方を選択する進路指導)
 - 高等部での産業現場等実習やデュアル実習等、系統的な職業指導の充実
- (ク) 創意工夫のある業務改善の推進と協働する職場づくり
- 「お互い様の精神」と「感謝の心」で協働し、働きやすい職場環境の実現
 - みなみタイム・スーパーみなみタイム(月の最終金曜日全校1便下校)
- (ケ) 学校自己評価・学校関係者評価等を生かした学校運営
- 保護者アンケート結果から見える学校の課題への対策・学校運営協議糧の意見を反映させる。
- ⑤ 地域とのつながりの中で、こどもを見守り、支え育てる。
- (コ) 関係機関や地域との密な連携
- SSW, SC, 各種機関との連携
 - 外部人材の積極的効果的活用(特別非常勤講師の任用)
 - 特別支援教育のセンターとして地域支援の充実(センター的機能)
- (サ) 地域財産を活用し、地域社会と学校の学びを繋ぐ教育活動の推進
- 社会に開かれた教育活動・交流及び共同学習・南図書館やゆめマート等との連携